

2017（平成29）年度 事業報告書

2017（平成29）年4月1日～2018（平成30）年3月31日

I	2017年度事業報告 事業の体系図 1
II	2017年度事業報告一覧 2

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

■2017(平成29)年度事業報告 事業の体系図



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団 2017(平成29)年度事業報告一覧

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日・回数等)	実施場所
公1 絵本美術館の設置運営					
ア 絵本等に関する展覧会・講演会の開催					
■ちひろ美術館・東京での展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろ展】	<開館40周年記念Ⅰ／日本デンマーク国交樹立150周年>ちひろと世界の絵本画家コレクションわたしのアンデルセン	人の世の夢や真実を美しい童話につむぎ、創作童話の祖として知られるアンデルセン。時代も国境も越えて読み継がれるその童話は、ちひろをはじめ、多くの画家たちにインスピレーションを与え、絵に描かれてきた。本展では、ちひろがアンデルセンの童話や自伝に描いた作品を紹介するほか、国内外の絵本画家たちが描いた作品もあわせて展示し、今もなお多くの画家の心を捉えてやまないアンデルセンの世界を紹介した。	9,629名	3月1日～5月14日	ちひろ美術館・東京
	<開館40周年記念Ⅱ><企画展>高畠勲がつくるちひろ展 ようこそ！ちひろの絵のなかへ	古今東西の美術や文学に通じ、第一線で活躍してきたアニメーション監督の高畠勲は、ちひろを「東アジアの子どもの尊厳をとらえた稀有な画家」と評し、その作品から創作のインスピレーションを得てきたという。高畠の独自の視点を通してちひろの絵の魅力を発見し、絵を拡大し展示してちひろの絵に没入できる空間をつくるなど、これまでにない演出でちひろの世界を“体感”する展示となった。	16,518名	5月19日～8月20日	ちひろ美術館・東京
	<開館40周年記念Ⅲ>ちひろの詩-絵は詩のように-	「詩のようにことばの短く、うつくしく、いろいろなことを思いうかべることのできる」童話が好きだと語ったちひろは、1960年代後半にことばと響きあう詩情を湛えた絵本で新たな表現を切り拓いた。若いころから、万葉集や宮沢賢治の詩にも親しんだちひろの感性を探り、その詩情あふれる絵の魅力に迫った。	9,055名	8月24日～11月5日	ちひろ美術館・東京
	<開館40周年記念Ⅳ>ちひろの歩み	子どものしあわせと平和を願い、画家として活躍したいわさきちひろ。本展では、岡田三郎助に師事した娘時代、第二次世界大戦後の駆け出しの画家のころ、そして絵本画家として活躍した時代へと、多くの資料を交えてちひろの画業を年代を追って紹介した。	12,557名	11月8日～2018年1月31日	ちひろ美術館・東京
【世界の絵本画家コレクションの展示】	<開館40周年記念Ⅰ／日本デンマーク国交樹立150周年>ちひろと世界の絵本画家コレクションわたしのアンデルセン	ちひろ美術館コレクションのなかから、清水良雄や初山滋、ヤナ・キセロヴァー、クヴィエタ・パツオウスカ、ボリス・ディオドロフ等、日本や世界の画家たちが、それぞれ異なる文化的な背景や個性によって視覚化した、多種多様なアンデルセンの童話の作品を展示した。	(9,629名)	3月1日～5月14日	ちひろ美術館・東京
【その他の企画展示】	<開館40周年記念Ⅰ／日本デンマーク国交樹立150周年><企画展>デンマークの心 イブ・スパング・オルセンの絵本	デンマークの国民的画家であり、国際アンデルセン賞作家賞を受賞した絵本画家でもあるイブ・スパング・オルセン。代表作『つきのぼうや』『アンデルセンの童話』などの絵本原画のほか、ポスター、アニメーションなどを展示し、その魅力を紹介した(共催:メディアリンクス・ジャパン)。	(9,629名)	3月1日～5月14日	ちひろ美術館・東京
	<開館40周年記念Ⅱ><企画展>奈良美智がつくる茂田井武展 夢の旅人	戦後の混乱期の子どもの本におびただしい数の絵を描きながら、日本の絵本の隆盛期を待たずには早逝した茂田井武。茂田井が亡くなった3年後に生まれ、今までに美術作家として世界的に活躍する奈良美智が、今も「新しい」と感じる茂田井武の作品を選び、展覧会を構成した。20代の欧洲放浪中に描かれた画帳や戦時中の日記、夢から生まれた絵物語、子どもの落書きのある絵など、折々の茂田井の内面が色濃く表れた作品が選ばれ、新たな茂田井武の魅力を開く展覧会となった。	(16,518名)	5月19日～8月20日	ちひろ美術館・東京
	<開館40周年記念Ⅲ><企画展>奇喜怪快 井上洋介の絵本展	絵本、漫画、イラストレーションなど、多彩な分野で活躍した画家・井上洋介。本展では、初の絵本『おだんごぱん』(1960年)から、ロングセラーとなった『くまの子ウーフ』、1970年代から展開した自作絵本など、絵本の仕事を中心に、タブローや漫画、アトリエ風景なども展示。鬼気迫る圧倒的な描写に、ナンセンスやユーモラスな表現を融合させた独自の表現世界を紹介した。	(9,055名)	8月24日～11月5日	ちひろ美術館・東京
	<開館40周年記念Ⅳ>日本の絵本100年の歩み	1910年代に子ども向けの雑誌「子供之友」や「赤い鳥」が相次いで創刊され、大正デモクラシーの機運を背景に童話、童謡、童画の運動から芸術性の高い絵雑誌や絵本が生まれた。第二次世界大戦を経て、ちひろをはじめとする個性的な絵本画家たちにより、絵本は再び隆盛期を迎えた。今日までの100年における日本独自の豊かな絵本表現の軌跡を検証した。	(12,557名)	11月8日～2018年1月31日	ちひろ美術館・東京
【講演会】	「わたしのアンデルセン」展関連企画 講演会「北欧の子どもの本」	講師:福井信子(東海大学文学部北欧学科教授) アンデルセンの生まれた国・デンマークを中心に、北欧の子どもの本の歴史や最新動向などを語った。	46名	4月15日	ちひろ美術館・東京
	「奈良美智がつくる茂田井武展」関連企画 講演会「茂田井武と夢の旅」	講師:広松由希子(絵本作家・評論家) 茂田井武の絵と旅と人生について語った。	60名	6月24日	ちひろ美術館・東京
	「井上洋介の絵本展」関連企画 対談「井上洋介を語る」	講師:片山健(絵本画家)・土井章史(編集者) 独自の世界を構築した画家・井上洋介の表現とその魅力について語った。	61名	9月24日	ちひろ美術館・東京

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日・回数等)	実施場所
【講演会】	「ちひろの歩み」展開連企画 講演会「母、いわさきちひろ」	講師:松本猛(ちひろ美術館常任顧問) 母ちひろの人生や画家としての歩みについて、近年新たに調査した事項を踏まえ、ちひろの両親や丸山文作、岡田三郎助、小田周洋らがちひろに与えた影響等について語った。	59名	11月26日	ちひろ美術館・東京
	「ちひろの歩み」展開連企画 講演会「印刷技術からみるちひろの歩み」	講師:寺本美奈子(キュレーター、実践女子大学非常勤講師) 印刷技術の進化をふまえて、ちひろの歩みや絵本づくりについて語った。	10名	12月10日	ちひろ美術館・東京
【ギャラリートーク】	「イブ・スパング・オルセンの絵本」展ギャラリートーク	講師:穂積保(こどもの本WAVE代表) 生前のオルセンとの35年間に及んだ交流や、展覧会の見どころを語った。	25名	3月11日	ちひろ美術館・東京
	松本猛ギャラリートーク	講師:松本猛(ちひろ美術館常任顧問) 母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころ等を語った。	各回20~30名	3月12日、6月4日、9月3日	ちひろ美術館・東京
	夏休み子どもギャラリートーク	夏休み期間中に来館が増える小・中学生にむけて、美術館や展覧会を身近に感じられるよう、楽しみ方のヒントを伝える目的で、対話型のギャラリートークを行った(文化庁:平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業の補助金対象事業)。	53名	8月7日、8月14日	ちひろ美術館・東京
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。	各回10~20名	毎月第1、3土曜日	ちひろ美術館・東京
■安曇野ちひろ美術館での展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろ展】	<開館20周年記念Ⅰ> <企画展>高畠勲がつくるちひろ展 ようこそ！ちひろの絵のなかへ	古今東西の美術や文学に通じ、第一線で活躍してきたアニメーション監督の高畠勲は、ちひろを「東アジアの子どもの尊厳をとらえた稀有な画家」と評し、その作品から創作のインスピレーションを得てきたという。高畠の独自の視点を通してちひろの絵の魅力を発見し、絵を拡大し展示してちひろの絵に没入できる空間をつくるなど、これまでにない演出でちひろの世界を"体感"する展示となった。	25,414名	3月1日~5月9日	安曇野ちひろ美術館
	<開館20周年記念Ⅱ> 走る！跳ねる！ちひろ・子ども百態	「子どもの肢体の魅力はかぎりない」と語ったちひろ。子育てのなかで、わが子や子どもたちの姿を日常的にスケッチに留め、どのような恰好もモデルなしで描くことができたという。本展では、絵本『となりにきた』や中期童画、育児書のカットなどを展示し、躍動感あふれる子どもの動きを、ちひろがどのようにとらえ、表現したかを探った。	20,179名	5月13日~7月4日	安曇野ちひろ美術館
	<開館20周年記念Ⅲ>いわさきちひろの歩み	生涯、子どもをテーマとして描き続けた画家いわさきちひろ。本展では、紙芝居、教科書、絵雑誌、絵本などのために描かれた作品を、資料や写真とともに展示し、55年の人生と画業を紹介。大正から昭和にかけての激動の時代を生き、子どもしあわせと平和を願って画家として活躍したちひろの全貌を展覧した。	51,088名	7月8日~9月12日	安曇野ちひろ美術館
	<開館20周年記念Ⅳ>ちひろと旅する信州	両親の故郷であり、終戦を迎えた地でもある信州は、ちひろの心のふるさとだった。本展では、ちひろの足跡をたどりながら、松川村や松本、安曇野、小谷温泉などのスケッチや、黒姫高原の山莊で描いた絵本など、信州の自然や風土から生まれた作品の数々を資料とともに展示し、ちひろと信州の関わりを紹介した。	26,958名	9月16日~11月7日	安曇野ちひろ美術館
	子どもの展示室(トトちゃんの部屋)	トトちゃんの電車の教室を一部再現し、教室の中で勉強するような感覚でワークショップを行ったり、穴をのぞくと見られる作品や子どもの目線に合わせた作品展示など、子どもだからこそ楽しむことができる展示空間を設けた。来館した子どもたちと「海のもの・山のもの」のお弁当ワークショップ等を毎日開催した。		通年	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの人生	ちひろゆかりの品々や素描・スケッチをはじめ、影響を受けた画家の作品等を展示するとともに、ちひろの人生を紹介するパネルや生前を知る人たちの証言映像、映像コーナー等により、ちひろの人間像を伝えた。2018年3月からは、来館者自身が自由に画像を拡大して見ることのできるタッチパネル式端末を導入し、ちひろの技法を紹介した。		通年	安曇野ちひろ美術館
【世界の絵本画家コレクションの展示】	<開館20周年記念Ⅰ> ちひろ美術館コレクション 旅する絵本	絵本には「旅」をテーマにした作品が多く見られる。本展では、コレクションのなかから、知らない土地や異国への憧れ、空想世界への冒險、旅情を誘う風景との出会いなど、旅へつながる作品の数々を紹介した。	(25,414名)	3月1日~5月9日	安曇野ちひろ美術館
	<開館20周年記念Ⅱ> ちひろ美術館コレクション 子どもの世界・世界の子ども	絵本画家たちはそれぞれがとらえた「子ども」を絵本のなかに表現している。本展では、コレクションのなかから、「日本の子ども・世界の子ども」「子どもの心」「子どものイマジネーション」「社会と子どもたち」「なつかしい子ども」をテーマに、世界各国の絵本画家が描いた作品の数々を紹介した。	(20,179名)	5月13日~7月4日	安曇野ちひろ美術館
	<開館20周年記念Ⅲ> ちひろ美術館コレクション 貼る！コラージュの絵本	画面にさまざまな素材を貼り付ける「コラージュ」の技法は、絵本でも表現技法のひとつとして用いられてきた。手彩色した薄紙を切り貼りするエリック・カール、穀物や葉、梶包材など多様なものを貼り付けるクラウディア・レニヤツツィなど、画家によって使われている素材も異なる。さまざまな質感が織り成す、コラージュの多彩な表現を紹介した。	(51,088名)	7月8日~9月12日	安曇野ちひろ美術館
	<開館20周年記念Ⅳ> ちひろ美術館コレクション よりどりみどり 世界の鳥	人間にとて身近な動物である鳥は、美しいフォルムや色で、古代から人々を魅了し、美術作品にも数多く登場する。描かれた鳥たちの姿には、各地の地域性とともに、画家たちの個性も表れている。本展では、コレクションのなかから、世界各国の鳥を描いた作品の数々を紹介した。	(26,958名)	9月16日~11月7日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日・回数等)	実施場所
【その他の企画展示】	＜開館20周年記念Ⅰ＞ ＜企画展＞奈良美智がつくる茂田井武展 夢の旅人	戦後の混乱期の子どもの本におびただしい数の絵を描きながら、日本の絵本の隆盛期を待たずに早逝した茂田井武。茂田井が亡くなった3年後に生まれ、今まさに美術作家として世界的に活躍する奈良美智が、今も「新しい」と感じる茂田井武の作品を選び、展覧会を構成した。20代の欧洲放浪中に描かれた画帳や戦時中の日記、夢から生まれた絵物語、子どもの落書きのある絵など、折々の茂田井の内面が色濃く表れた作品が選ばれ、新たな茂田井武の魅力を開く展覧会となった。	(25,414名)	3月1日～5月9日	安曇野ちひろ美術館
	＜開館20周年記念Ⅲ＞ ＜企画展＞日本の絵本100年の歩み	1910年代に子ども向けの雑誌「子供之友」や「赤い鳥」が相次いで創刊され、大正デモクラシーの機運を背景に、童話、童謡、童画の運動から芸術性の高い絵雑誌や絵本が生まれた。第二次世界大戦を経て、ちひろをはじめとする個性的な絵本画家たちにより、絵本は再び隆盛期を迎えた。今日までの100年における日本独自の豊かな絵本表現の軌跡を検証した。	(51,088名)	7月8日～9月12日	安曇野ちひろ美術館
	＜開館20周年記念Ⅳ＞ ＜企画展＞日本デンマーク国交樹立150周年 イブ・スパング・オルセンの絵本展	デンマークの国民的画家であり、国際アンデルセン賞作家賞を受賞した絵本画家でもあるイブ・スパング・オルセン。代表作『つきのぼうや』『アンデルセンの童話』などの絵本原画のほか、ポスター、アニメーションなどを展示し、その魅力を紹介した(共催:メディアリンクス・ジャパン)。	(26,958名)	9月16日～11月7日	安曇野ちひろ美術館
	『窓ぎわのトトちゃん』電車の教室での復元展示	松川村営安曇野ちひろ公園のトトちゃん広場の電車の教室で、ちひろの絵で世界に愛されている『窓ぎわのトトちゃん』の世界を再現する展示を行い、戦争の時代に子どもの人格を尊重し、個性を大切にした教育が行われた様子を伝えた。それにあわせて、館内では、子どもの展示室で再現展示を年間を通じて行った。		通年	安曇野ちひろ美術館他
【絵本の歴史展示】	絵本の歴史	紀元前エジプトの「死者の書」や4～5世紀のフランドルの時祷書、絵巻物から、江戸時代の草双紙、20世紀初頭の絵本にいたるまで、絵本とイラストレーションの歴史に関する作品・資料を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代(印刷本)」の3つの時代に分けて紹介した。		通年	安曇野ちひろ美術館
【講演会】	「高畠勲がつくるちひろ展」関連企画 講演会「高畠勲が語る ちひろの魅力」	講師:高畠勲(アニメーション監督) 独自の視点で捉えたちひろの絵の魅力を語った。	90名	4月16日	安曇野ちひろ美術館
	「いわさきちひろの歩み」展関連企画 講演会「母・いわさきちひろの歩み」	講師:松本猛(ちひろ美術館常任顧問) 母ちひろの人生や画家としての歩みについて語った。	44名	7月29日	安曇野ちひろ美術館
【ギャラリートーク】	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の展示の見どころや各展示のエピソード等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。	各回10～20名	毎月第2、4土曜日	安曇野ちひろ美術館

■他館と提携する展覧会・講演会、ギャラリートーク等

【展覧会】	童・楽—いわさきちひろ原画展 (童・楽—岩崎知弘絶品插画展)	ちひろの代表作をはじめ、初期デッサン、旅先のスケッチから絵本原画までの作品100点と、遺品、晩年のアトリエ(復元)、写真や映像を展示し、アジアで初めてとなる原画展を開催した。会期中、2月3日に講演会「いわさきちひろの絵と人生」(講師:竹迫祐子/参加者120名)、3月17日に講演会「母・いわさきちひろを語る」(講師:松本猛/参加者170名)を開催した(オ 絵本等に関する国際交流にも記載)。	15,764名	2018年2月1日～4月22日	台湾国立歴史博物館(台湾・台北)
	ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展	ピエゾグラフによる複製画展を、開催希望自治体、団体、施設と協力をして開催した。展覧会にあわせて、ギャラリートークやおはなし会、水彩技法ワークショップを実施した。	4,841名	通年①3月24日～6月12日 ②6月23日～9月4日③9月15日～11月27日④12月8日～2018年3月5日	「ちひろの生まれた家」記念館(福井県越前市)
			3,747名	7月18日～8月31日	戦争と平和の資料館ピースあいち(愛知県名古屋市)
			1,997名	7月22日～8月22日	高梁市歴史美術館(岡山県高梁市)
			1,978名	10月6日～11月5日	武生公会堂記念館(福井県越前市)
			1,746名	11月21日～12月20日	大館市立栗原記念図書館(秋田県大館市)
	韓国各地の図書館における、ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展	いわさきちひろの代表作を、韓国でも愛されている『窓ぎわのトトちゃん』掲載の作品とともにピエゾグラフで紹介する展示を、韓国内7カ所の図書館で巡回した。全7か所での合計入館者数は、22,556名。会期中は、講演会やワークショップも計5回開催、200名の参加があった(講演会: Seoul Metropolitan Library<80名>, Dam Library<20名>, Barunsam Children's Library<30名>, Gim-hae Miracle Library<30名>・ワークショップ: Dam Library<40名>/オ 絵本等に関する国際交流にも記載)。	7,412名 6,762名 1,650名 1,820名 2,150名 1,912名 850名	4月26日～5月28日 6月14日～7月16日 7月25日～9月3日 9月6日～9月22日 9月26日～10月28日 11月1日～11月11日 12月19日～2018年1月25日	Seoul Metropolitan Library(ソウル) Dobong Miracle Library(ソウル) Dam Library(チョンチョン) Barunsam Children's Library(スウォン) Gim-hae Miracle Library(キメ) Suncheon Life and Health Center(スンチョン) Picture Book Gallery Gerazine(チェジュ)
	日本の絵本の歩み—絵巻から現代の絵本まで 展	当館のコレクション作品のピエゾグラフや歴史展示資料、および国会図書館国際子ども図書館の絵巻、奈良絵本、古典籍などの資料を含め、日本の子どもの本のあゆみを絵因果経から現代まで紹介し、講演会、ワークショップ、ギャラリートークも会期中実施した。	9,900名	11月1日～11月30日	国立国会図書館国際子ども図書館
	日本の絵本の歩み—物語る絵の系譜 (圖像叙事的藝術:日本絵本演進史 特展)	絵巻から現代の絵本に至る日本の絵本の歩みを、台湾に現存する日本の絵本や絵雑誌とともに、資料とピエゾグラフで紹介した。8月5日には、講演会(講師:竹迫祐子)を開催した(公益財団法人日本台湾交流協会助成金対象事業/オ 絵本等に関する国際交流にも記載)。	10,200名 25,496名	8月5日～9月10日 10月18日～11月17日	国立台湾図書館(台湾・台北) 国立台東大学(台湾・台東)
	童心社60年展	瀬川康男『いないないばあ』ピエゾグラフ6点を展出した。	6,539名	3月18日～4月9日	銀座教文館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日・回数等)	実施場所
【展覧会】	おいでよ！絵本ミュージアム2017	いわさきちひろ『おふろでちゃぶちやぶ』ピエゾグラフ6点、瀬川康男『いないないばあ』ピエゾグラフ6点を出展した。	55,613名	7月20日～8月20日	福岡アジア美術館
	「1968年」—無数の問いの噴出の時代	いわさきちひろの「世界中のこどもみんなに平和としあわせを」ピエゾグラフ1点を出展した。	20,635名	10月11日～12月10日	国立歴史民俗博物館
	童心社60周年記念『いないないばあ』50年の歩み	瀬川康男『いないないばあ』ピエゾグラフ6点を出展した。	3,500名	10月19日～11月14日	塩尻市立図書館
	キンダーブックの90年—童画と童謡でたどる子どもたちの世界—	「キンダーブック」掲載の原画から、いわさきちひろ2点、茂田井武2点を出展した。	18,287名	10月21日～2018年1月14日	印刷博物館
【講演会】	講演会「いわさきちひろの絵と人生」	講師：竹迫祐子（安曇野ちひろ美術館副館長） いわさきちひろの絵と人生について語った。	40名	7月22日	高梁市歴史美術館（岡山県高梁市）
	講演会「母いわさきちひろを語る」	講師：松本猛（ちひろ美術館常任顧問） 母ちひろの人生や画家としての歩みについて語った。	80名	7月23日	戦争と平和の資料館ピースあいち（愛知県名古屋市）
	トーク「いわさきちひろ…絵と人生」	講師：竹迫祐子（安曇野ちひろ美術館副館長） いわさきちひろの絵と人生について語った。	50名	12月17日	大館市立栗盛記念図書館（秋田県大館市）
【ギャラリートーク等】	いわさきちひろ展ギャラリートーク	講師：宍倉恵美子（安曇野ちひろ美術館アソシエイト） 開催中の展示の見どころや各展示のエピソード等を、作品を見ながら解説した。	50名	7月22日	高梁市歴史美術館（岡山県高梁市）
	いわさきちひろ展ギャラリートーク	講師：宍倉恵美子（安曇野ちひろ美術館アソシエイト） 開催中の展示の見どころや各展示のエピソード等を、作品を見ながら解説した。	30名	10月6日	武生市公会堂記念館（福井県越前市）
	いわさきちひろ展「子どものための鑑賞教室」	講師：山田実穂（安曇野ちひろ美術館アソシエイト） 子どもを対象に、展覧会をより楽しむための鑑賞教室を行った。	6名	10月29日	武生市公会堂記念館（福井県越前市）

イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに調査・研究

作品・資料の収集	絵本原画、関連資料等の収集	世界の絵本画家の作品1点（寄贈）を新規に収蔵した。	通年	両館	
	絵本と絵本の歴史資料の収集	時代のエポックとなり、未来に継承すべき優れた芸術性を持つ絵本の資料・絵本の歴史資料の収集を進めた。	通年	両館	
	絵本、関連書籍等の収集	優れた芸術性を持つ魅力的な絵本の収集を進めた。	通年	両館	
作品・資料の保存	作品・資料の保存管理	絵本原画を中心とした収蔵作品の適切な保存管理を行なうとともに、画像データベース等での作品管理を進めた。	通年	両館	
	作品・資料のデジタル・アーカイブス	支持体、画材とも脆弱な水彩画であるいわさきちひろ作品や、世界の絵本画家作品のデジタル・アーカイブスを、右記の点数行った。	・ちひろ新規アーカイブス20点 ・世界の絵本画家新規アーカイブス44点	通年	両館
	作品・資料の修復	支持体、画材とも脆弱な水彩画であるいわさきちひろ作品や、世界の絵本画家作品の作品、資料等の修復作業を、適宜行った。	通年	両館	
作品・資料の調査・研究	コレクション作家等の調査・研究	2017年のちひろ美術館・東京の開館40周年・安曇野ちひろ美術館の開館20周年、2018年のいわさきちひろ生誕100年記念展覧会等にむけて、コレクション作品の表現・技法、作家の人生、芸術観、時代背景等について、調査・研究を行い、調査資料の収集とドキュメンテーションを進めた。	通年	両館	
	絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究	ちひろ美術館・東京の開館40周年・安曇野ちひろ美術館開館20周年にあたり、両館で開催する日本の絵本100年の歩み展、ならびに、国際子ども図書館での絵本の歴史展のために絵本とイラストレーションの歴史に関する調査・研究を進めた。	通年	両館	
	絵本等に関する調査・研究	イブ・スパング・オルセンや井上洋介等の絵本の表現、テーマ、絵本の造形について調査・研究を進め、展覧会で紹介した。	通年	両館	
	いわさきちひろ作品目録	いわさきちひろ作品の基礎データ（制作年・技法・サイズ・初出等）の完備を目指して調査を進め、主要図版とともに「いわさきちひろ作品目録」にまとめる作業を進めた。	通年	両館	
	研究成果の公開 作品、展示解説を掲載した図録の発行と主要な絵本関連団体、類縁機関、図書館への寄贈	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、「奈良美智がつくる茂田井武展『夢の旅人』」「日本の絵本100年の歩み展」の図録、「美術館だより」、HPを通じて公開した。また、それら図録等は、絵本関連団体、類縁機関、国際子ども図書館等の主要な図書館へ寄贈した。	通年	両館	
	研究成果の公開 HPでの作品、展示解説掲載	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、HPにアップロードした。	通年	両館	
	研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行（年4回）	研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、各館ごとに年4回発行する「美術館だより」やHPを通じて、公開した。	各館ごとに年4回・計8回の発行	通年	両館

ウ 絵本等に関する教育活動

ワークショップ・講座の開催	開館40年・20年記念 対談 高畠勲×奈良美智	講師：高畠勲（アニメーション監督）・奈良美智（美術作家） 「いわさきちひろ展」をつくった高畠勲、「茂田井武展」をつくった奈良美智のふたりが、絵の奥をみるということ、そして表現するということへの思いを語り合った。	403名	8月30日	紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA
---------------	----------------------------	--	------	-------	------------------------

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日・回数等)	実施場所
ワークショップ・講座の開催	開館40年・20年記念 対談「日本の絵本の過去・現在・未来」	講師:小野明(編集者)・土井章史(編集者) 1990年代からの絵本をリードしてきたふたりの編集者、小野明と土井章史が、日本の絵本の過去と現在と未来について語り合った。	61名	11月12日	ちひろ美術館・東京
	開館40年・20年記念 講演会「戦時下の言論統制と絵本」	講師:野上暁(子どもの文化評論家) 戦時下の作家、画家、そして出版界の動きを、具体的な絵本とその本文ページを紹介しながら紹介した。	59名	12月2日	ちひろ美術館・東京
	ちひろの水彩技法体験ワークショップ	いわさきちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った(文化庁:平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業の補助金対象事業)。	計5回、371名	7月21日～23日、 2018年1月2日～3日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 わらべうたあそび	講師:服部雅子(西東京市もぐらの会代表) 0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、わらべうたあそびの会を開催した(文化庁:平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業の補助金対象事業)。	計4回、119名	4月1日、7月1日、 9月16日、11月18日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 あかちゃんのための鑑賞会	講師:富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表) 0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、あかちゃんのための鑑賞会を開催した(文化庁:平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業の補助金対象事業)。	計3回、76名	10月1日、2018年1月14日 (2回)	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 子どものための鑑賞会	講師:富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表) 3歳児～小学1年生とその保護者を対象にした、幼児～児童のための鑑賞会を開催した(文化庁:平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業の補助金対象事業)。	計2回、46名	10月1日、2018年1月14日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座 親業講演会「一今日から実践できる— 子どもに気持ちが伝わる話し方」	講師:田中満智子(親業訓練協会インストラクター) 「子どもの幸せと平和」のためには、よい親子関係が不可欠。「子どもの本当の気持ちを聞く」「親の気持ちを話す」「対立を解く」という3本柱で親子のよりよいコミュニケーションを学ぶ、親業訓練についての講演会を行った(文化庁:平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業の補助金対象事業)。	44名	10月12日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 ファーストミュージアムデー	乳幼児とその保護者を対象に、子どもと一緒に美術館や絵本を楽しむ講座を開催した。	25名	6月3日	安曇野ちひろ美術館
	「ちひろの歩み」展関連企画 ドキュメンタリー映画 上映会 「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」	ちひろのドキュメンタリー映画を通して、ちひろの人生と絵に込められた思いを紹介した。	105名	9月2日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの水彩技法体験ワークショップ	いわさきちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った。	計1,805名	8月1日～16日、11月4日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの絵による『窓ぎわのトトちゃん』関連活動	ちひろの絵が数多く掲載されている『窓ぎわのトトちゃん』の様々なエピソードを元に、関連したワークショップ等を、地域の方々や地元の学校の協力を得て、館内やトトちゃん広場にて開催した。		通年	安曇野ちひろ美術館他
学校との提携活動	地元中学校との提携活動―中学生ボランティア	松川中学校と連携して中学生ボランティア育成のための研修を行い、夏休み期間中に、来館者を対象にした「ちひろの水彩技法体験ワークショップ」や「おりがみワークショップ」、ガイドツアー、絵本の読み聞かせ等の活動を行った(長野県:平成29年度地域発元気づくり支援金対象事業)。	168名	6月14日～8月16日	安曇野ちひろ美術館
	出前授業、出前講座	いわさきちひろやちひろの絵の魅力を伝え、その技法を体験するワークショップを含めた出前授業を企画し、学校等に出向いて実施した。	1校、93名 計4件、162名	6月14日～16日 6月3日、11月9日、10日、 12月5日	三谷小学校 松川小学校、会染小学校(北安曇教頭会)、松川村社会福祉協議会ゆうあい館
	来館団体への各種教育プログラム	授業や修学旅行などで来館した学校を対象に、ちひろの水彩技法ワークショップやトトちゃん広場オリエンテーリング、読み聞かせなどを組み合わせた館内外での教育プログラムを行った。特別支援学校や高齢者施設、視覚障がい者等の団体にも、内容を工夫しながらプログラムを行なった。	計33件、1,040名	4月28日、5月21日、26日、 6月1日、4日他	安曇野ちひろ美術館
	スクールミュージアム	長野県下の希望校を対象に、展覧会の作り方を指導、複製画等の貸し出しを行い、生徒の力で展覧会が開催できるよう生徒キュレーターの育成を行った。	1校	9月28日～10月6日	大桑中学校(木曾郡大桑村)
	教員向け内見会・内見週間の開催	教員を対象とする内見会・内見週間を開催、博学連携の活動を行った。	計4回、41名 計2回、54名	3月11日～20日、5月19日～28日、7月30日(図工部会)、8月24日～31日 7月29日～8月6日、10月28日～11月5日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
	職場体験実習の受入	練馬区近辺、松川村近辺の中学校から職場体験実習生を受け入れ、美術館業務の体験を通して博学連携の活動を行った。(東京館:都立立川国際高校4名、ニューインターナショナルスクール1名、練馬区立石神井南中学校3名、杉並区立井草中学校2名／安曇野館:松川中学校2名、大町市立仁科台中学校1名、大桑村立大桑中学校1名)	計4校、10名 計3校、4名	7月21日～23日、7月26日～27日、9月6日～7日、9月12日～14日 9月5日、6日、8日、9日、10月31日、11月1日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
	学芸員実習、インターンシップ生の受入	学芸員実習希望者(安曇野館:武蔵野美術大学1名、京都美術工芸大学1名)の受入を行った。	計2校、2名	9月19日～23日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日・回数等)	実施場所
エ 絵本等に関する普及活動					
絵本等の公開・閲覧	両館での絵本図書室・絵本カフェによる絵本の公開・閲覧	長きに渡って愛され続ける絵本とともに、新刊等幅広い国内外の絵本を、絵本の専門美術館としての視点で選書し、芸術性に優れた魅力的な絵本を配架し、両館の絵本図書室・絵本カフェ等での閲覧に供した。		通年	両館
絵本等の紹介活動	コレクション作家・企画展作家・その他の世界の絵本作家の絵本等の紹介、頒布、レファレンス、読み聞かせ指導、読書指導	当館の視点で選書した国内外の絵本を、絵本図書室、HP等で紹介、普及、頒布するほか、どのような絵本を選べばよいのか、どのように読めばよいのか等々、来館者をはじめ、幅広い求めに応じて、適宜、選書や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、日々の暮らしの中で身近に絵本が楽しめるよう支援を行った。		通年	両館
読み聞かせ会	おはなしの会(絵本の読み聞かせ)、絵本の広場等の開催	絵本の理解を深め、展示鑑賞をより充実したものとするため、両館それぞれで、定期的に絵本の読み聞かせ会を開催した。あわせて、同様に、学校・保育園等からの団体鑑賞に際して、要望に応じて、読み聞かせ等を行った。	計23回、539名 計34回(うち学校団体等16回)804名	毎月第2、4土曜日他 毎月第2、4土曜日他	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
地域・団体との提携による複製画展	各地の自治体、地域、団体との提携による、複製画展の開催	ちひろの平和への願いを伝えるために、平和の絵本2冊のパネルや複製画を、希望する施設・団体・学校等に、右記の通り、貸し出した。		6月11日	鳥取9条の会
				7月31日～8月21日	札幌市役所
				7月7日～8月31日	北海道美唄市教育委員会(美唄市郷土史料館)
				9月1日～10月6日	埼玉県ふじみ野市役所
病院との提携活動	季節ごとの病院院内展示・ワークショップの実施	来館が難しい患者やその家族を対象に、病院内の複製画展を行うとともに、絵本に親しむ機会を設けた。		随時	東京女子医科大学病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合周産期母子医療センター、国立成育医療研究センター、同センター内子どもホスピス「もみじの家」
オ 絵本等に関する国際交流					
海外における展覧会・講演会・ワークショップ	台湾国立歴史博物館における「童・楽—いわさきちひろ原画展」(童・楽—岩崎知弘絶品插画展)の開催	ちひろの代表作をはじめ、初期デッサン、旅先のスケッチから絵本原画までの作品100点と、遺品、晩年のアトリエ(復元)、写真や映像を展示し、アジアで初めてとなる原画展を開催した。 会期中、2月3日に講演会「いわさきちひろの絵と人生」(講師:竹迫祐子/参加者120名)、3月17日に講演会「母、いわさきちひろを語る」(講師:松本猛/参加者170名)を開催した(ア 絵本等に関する展覧会・講演会の開催 にも記載)。	(15,764名)	2018年2月1日～4月22日	台湾国立歴史博物館(台湾・台北)
	韓国各地の図書館における、ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展	いわさきちひろの代表作を、韓国でも愛されている『窓ぎわのトトちゃん』掲載の作品とともにピエゾグラフで紹介する展示を、韓国内7カ所の図書館で巡回した。全7か所での合計入館者数は、22,556名。会期中は、講演会やワークショップも計5回開催、200名の参加があった(講演会: Seoul Metropolitan Library<80名>, Dam Library<20名>, Barunsam Children's Library<30名>, Gim-hae Miracle Library<30名>/ワークショップ: Dam Library<40名> /ア 絵本等に関する展覧会・講演会の開催 にも記載)。	(7,412名) (6,762名) (1,650名) (1,820名) (2,150名) (1,912名) (850名)	4月26日～5月28日 6月14日～7月16日 7月25日～9月3日 9月6日～9月22日 9月26日～10月28日 11月1日～11月11日 12月19日～2018年1月25日	Seoul Metropolitan Library(ソウル) Dobong Miracle Library(ソウル) Dam Library(チョンチョン) Barunsam Children's Library(スウォン) Gim-hae Miracle Library(キメ) Suncheon Life and Health Center(スンチョン) Picture Book Gallery Gerazine(チェジュ)
	韓国・スンチョン子どもの本フェスティバル	韓国・スンチョン子どもの本フェスティバルに参加し、世界で初めての絵本美術館としてちひろ美術館の歩みと活動を紹介した。		9月22日、23日	韓国・スンチョン
	シンガポールにおけるAFCCへの参加	シンガポールで開催されるAFCC(Asian Festival of Children's Contents)に参加し、2016年「フォーカス国日本」の成果を伝えるとともに、アジアの各団体参加者との交流を深めた(AFCC国際交流基金助成金対象事業)。		5月19日	シンガポール
	インドネシアにおけるいわさきちひろの普及	インドネシアの関係団体と連携し、いわさきちひろについてのスライドトークを行い、ピエゾグラフによる「ちひろ展」の準備を行った。	25名	5月20日～22日	インドネシア・ジャカルタ
	台湾での「日本の絵本の歩み展—物語る絵の系譜(圖像叙事的藝術:日本繪本演進史 特展)」の開催	絵巻から現代の絵本に至る日本の絵本の歩みを、台湾に現存する日本の絵本や絵雑誌とともに、資料とピエゾグラフで紹介した。8月5日には、講演会(講師:竹迫祐子)を開催した(公益財団法人日本台湾交流協会助成金対象事業) /ア 絵本等に関する展覧会・講演会の開催 にも記載)。	(10,200名) (25,496名)	8月5日～9月10日 10月18日～11月17日	国立台湾図書館(台湾・台北) 国立台東大学(台湾・台東)
	中国 上海国際児童書ブックフェア参加、並びに、北京、上海での展示のための準備	2018年のちひろ生誕100年展に向けて各関係者と協議を進め、北京では会場視察を行った。		随時	中国・北京
海外からの研修受入と交流	海外の絵本・絵本美術館等関係者の視察・研修受入	韓国・中国等の絵本画家、絵本美術館関係者、研究者に当館の展示や保存技術、理念等を研修し、交流した。海外からの関係者の視察を受け入れた。	計5回 26名	4月20日、4月21日、7月8日、10月21日、11月2日	両館
海外の関係機関とのネットワーク	絵本と子どもの本の専門機関(IBBY、JBBY、絵本学会)等との提携活動	絵本と子どもの本の国際的な専門機関であるIBBY(International Board on Books for Young People)、並びに、国内の専門機関であるJBBY、絵本学会、全国絵本ミュージアムネットワーク等との交流を深め、適時、提携活動を行った。		随時	両館
	絵本美術館ネットワーク設立のための情報収集	世界的な絵本美術館ネットワークの設立のための準備を行った。		随時	両館
	海外の図書館等へのちひろの絵本の普及	海外の国際交流基金や公立図書館等に、ちひろの絵本を寄贈し、普及に努めた。		随時	両館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日・回数等)	実施場所
力 絵本等に関する支援活動					
絵本の専門家への支援活動	絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援	絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家からの問い合わせに応え、レファレンス等を行った。		随時	両館
	絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援	絵本美術館について学ぶ国内外の学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを吟味した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を提供し、その活用をもって研究活動を支援した。		随時	両館
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布	鑑賞者が作品や作家に興味を持ち、理解を深めるための手助けとして、解説やガイドブック、ワークシート、セルフガイド等を作成、館内配布やWEB配信をするとともに、画集や複製画の紹介、頒布等を行い、それらを通して作品鑑賞を手助けする活動を行った。		随時	両館
	館内の絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ指導等	絵本の問い合わせ等に随時対応する他、来館者を対象に絵本の紹介や、読み聞かせの方法等について指導を行った。		随時	両館
	地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ指導等	地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本が楽しめるよう支援した。		随時	両館
地域の子育て支援団体との提携活動	地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ指導等	松川村保健センターと協力し、絵本の出会い事業として、同村の新生児とそのお母さんを対象にファーストブックを贈呈し、絵本の選び方や読み聞かせ等についてアドバイスを行った。	計60名	年6回	安曇野ちひろ美術館/松川村保健センター

その他					
生誕100年記念事業	生誕100年記念事業の取り組み	2018年いわさきちひろの生誕100年に向け、他館との連携で行う大規模ないわさきちひろ生誕100年記念展開催のための研究、調査、準備を進めるとともに、当館でいわさきちひろとコラボレーション展を開催するクリエーターを定め、協議を進めながら、新しいちひろの魅力を広げていく展示や関連の取り組みのための準備を進めた。		通年	両館
		東日本大震災の被災証明を提示した来館者は全員無料とした。 館内の来館者に対し、東北、熊本、鳥取等の被災地支援の義援金を呼び掛けた。	東京館 10名 総額42,992円	通年 ちひろ美術館・東京	両館
被災地支援	災害支援の取り組み	館内の来館者に対し、新潟、熊本、秋田と台風18号、21号の被災地支援の義援金を呼び掛けた。	総額82,774円	通年	安曇野ちひろ美術館
無料入館日	無料入館日の取り組み	美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を設けた。なお安曇野館では、近隣市町村の人々により当館に親しんでもらうため、松本市から白馬村までの近隣市町村ごと、長野県民対象とした無料入館日を、右記の通りそれぞれに設けた。	967名 計1,344名	12月17日 池田町・生坂村:4月23日 松本市:5月21日 大町市:6月4日 安曇野市:6月18日 白馬村・小谷村:9月24日 長野県:10月22日、3月25日 松川村:3月4日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
支援会員制度等	支援会員(寄付会員)制度等、寄付の取り組み	当財団、及び、ちひろ美術館(東京・安曇野)の理念を積極的に伝え、世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援活動を支えていただく寄付を呼びかけ、支援会員制度他の寄付を受けた。	支援会員数328名 (新規57名・継続271名)	通年	両館

収1

その他この法人の目的を達成するために必要な活動	ミュージアムショップの運営	来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなるよう、ミュージアムショップの運営を行った。		通年	両館
-------------------------	---------------	---	--	----	----

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

■2017(平成29)年度事業報告書の附属明細書

当財団の事業報告書については、附属明細書に該当する事項がないため、附属明細書を省略する。